

国内クレジット認証委員会御中

## 審査結果概要書

平成 24 年 6 月 22 日

審査機関名 株式会社日本スマートエナジー

### 1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	庄内ミート株式会社における灯油ボイラから都市ガスボイラへの更新プロジェクト
排出削減事業者名	庄内ミート株式会社
排出削減共同実施事業者名	一般社団法人 低炭素投資促進機構 (その他関連事業者：鶴岡ガス株式会社)
事業実施場所	庄内ミート株式会社 宝田工場 (山形県鶴岡市宝田三丁目 2 番 39 号)
事業の概要	既設の灯油ボイラーを高効率の都市ガスボイラに更新することで、燃料使用量を削減し、また低炭素燃料への転換により、CO2 排出量を削減する。
排出削減量の計画	2011 年度 35tCO2/年 2012 年度 66tCO2/年 (事業実施期間合計 101tCO2)
国内クレジット認証期間	開始日 2011 年 9 月 20 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新

### 2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している。

### 3. 実施した審査手続きの概要

審査手続きにより、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続き
日本国内で実施されること	<p>事業計画が日本国内で実施されていることを、事業サイトを訪問して確認した。</p> <p>事業実施サイトの場所：庄内ミート株式会社 宝田工場</p> <p>事業実施サイトの視察日付：2012年6月12日</p>
追加性を有すること	<p>1) 法的義務がないこと</p> <p>本事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、CO<sub>2</sub>排出量の削減を目的として実施されたことを本排出削減事業者への質問等により確認した。</p> <p>2) 設備が継続利用可能であること</p> <p>本事業が実施できない場合には、既設の設備が継続的に使用されることを質問、関連資料の閲覧および事業サイト視察時の既設設備導入年月の確認等により確認した。</p> <p>3) 投資回収年数</p> <p>本事業の投資回収年数計算については、入手した根拠資料、質問および検算により、更新後設備のランニングコストが既存設備のランニングコストより多いため、投資回収年数を算定できないことを確認した。</p> <p>4)追加性判断における定性要因</p> <p>本事業者は、畜産副産物処理加工事業を営んでおり、環境負荷低減を経営上の重要課題と捉え、ボイラー更新を検討していた。今回の更新を契機として、①エネルギー使用量の削減、②CO<sub>2</sub>排出量削減などが可能となることを考慮し、また国内クレジット制度について、ガス供給事業者の提案がありクレジット売却益も見込めることを認識して、本事業を実施する意思決定に至ったことを事業者への質問により確認した。</p>
自主行動計画に参加していない者により行われること	<p>排出削減事業者および加盟団体へのヒヤリングにより、事業者、当該団体ともに自主行動計画に参加していないことを確認した。</p>
排出削減方法論に基づいて実施されること	<p>1) 本排出削減事業は、承認排出削減方法論 001「ボイラーの更新」に基づき排出削減量を計算しており、また、方法論</p>

	<p>の適用条件を満たしていることを確認した。</p> <p><b>【方法論番号 001 ボイラーの更新】</b></p> <p>適用条件 1 については、本事業は既設の灯油ボイラー仕様書や新設の都市ガスボイラーの視察、仕様書の確認等により、高効率のボイラーを導入したことを確認した。</p> <p>適用条件 2 については、設備導入時期、法定耐用年数等の確認により既設灯油ボイラーが継続して使用可能であることを確認した。</p> <p>適用条件 3 については、更新後のボイラーで生産された蒸気を自家消費することを現地視察及び提出された資料、関係者への質問により確認した。</p> <p>2) 既設設備の使用年数は、ボイラーの法定耐用年数 10 年の 2 倍を超えていないことを、質問および関連資料の閲覧により確認した。</p> <p>3) その他、バウンダリの設定、ベースラインの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリングの方法が適切であることについて、それぞれ質問と関連証憑により確認した。</p>
--	---

上記の詳細については、別紙「排出削減事業の要件についての確認事項一覧」を参照すること。

#### 4. 特記事項

特になし

以上